

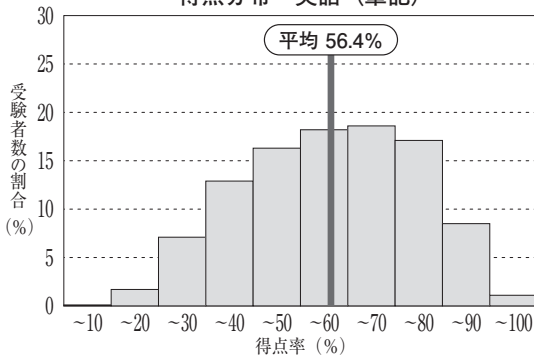
英語 (筆記)

重点的に弱点を補強し、受験本番に備えよう。

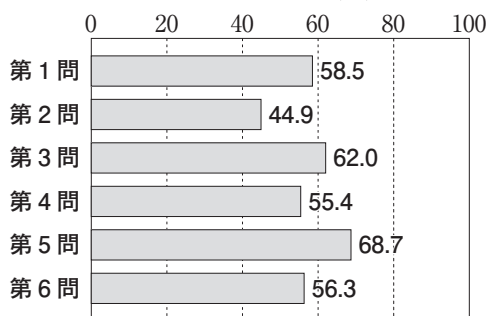
I. 全体講評

全国統一高校生テストは毎年実施されるセンター試験の内容とレベルに準拠している。この時期ともなれば、受験学年（高3生・高卒生）の人たちはすでに熟知している出題形式であろう。一方、初めて受験する高1生や高2生にとっては、語彙レベル、未習の文法事項、問題量に比しての時間的制約といった点で、ハードルの高さを実感した試験であったかもしれない。今回の受験学年の平均点は112.8点で、まずまず標準的な結果であった。この結果を踏まえ、各自がそれぞれの課題の克服に努め、より一層の得点力を身につけてほしい。

得点分布 英語 (筆記)



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

綴りだけで判断しないことが大切！

第1問の受験学年の得点率は58.5%で、平均的な結果であった。このうちAの発音問題の平均が52.6%、Bのアクセント問題は63.0%と、発音問題の方がやや低調だった。小問毎の正答率を見ると、Aには30%台にとどまった小問が1つあり、それが大きく足を引っ張った。これに対し、Bは50%台後半から70%台前半と安定していた。今回最も正答率が低かったAの問1は基本的な母音字aの発音を問うものであり、正解の③purchaseのみが短母音、他が二重母音であった。正解者は31%ほどで、④vacantを選んだ人の方が多かった。purchaseについては、chaseからの連想で二重母音と考えた可能性が高い。単に部分的な綴りの共通性のみを目を注ぐと思わぬ落とし穴に陥る。英語本来の音声を見失わないように、地道に音読を励行してほしい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

形と意味のつながりに注意しよう！

第2問の受験学年の得点率は44.9%で、今回の大問別では最も低かった。その内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が56.8%、Bの整序問題が48.2%、Cの応答文完成問題が26.4%と、特にCが不振であった。小問別の正答率によると、Cでは問1と問3が10%台と7%台であった。問1は書き出しのI don't thinkに続けて、there is anything wrong with~という決まった形にするものであったが、多くの人が書き出し部分を忘れたかのように、there is nothing wrongとしていた。問3は仮定法を用いた文だが、それよりも基本的な代名詞one、句動詞ask forの使い方を間違えた人が多かった。ここでは文法(構文)・語法の知識、応用力が鍵を握る。ここで不安を抱えるところがあれば、できるうちに再度復習しておこう。

第3問 文脈把握 (文削除・要約)

全体的に良くできていた！

第3問の受験学年の得点率は62.0%で、かなり良くできていた。内訳では、Aの不要文削除の問題が64.7%、意見の要旨を選ぶBが59.8%と、さほど大きな差は見られなかった。小問別正答率に関しても、全問が50%台半ばから70%台の範囲に収まっていた。バランス的に見ても問題はない。第3問では、センター試験特有の出題形式を用いているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力である。文の流れをつかむこと、どこに重点が置かれているかを見極めること、の2点が最も重要である。本番で高得点を得るためにも、センター試験の過去問及びセンター試験本番レベル模試の出題例を参考に、この形式には十分慣れ親しんでおこう。

**第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り
センター試験特有の問題で差が出た！**

第4問の受験学年の得点率は55.4%で、今回のすべての大問中2番目に低かった。グラフを含む説明文を素材としたAは70.8%、広告文書を素材としたBは40.0%と、Bがやや不振であった。得点率自体は特に悪いわけではなかったが、小問別正答率を見ると、Aには30%台が1問、Bには20%台が2問あり、これらが全体に大きく影響した。不振だったAの間4は数年来続く設問で、本文の展開を予測させるものである。ここで求められるのは論理的な流れと重点を見抜く力である。また、最も正答率が低かったBの間2は金額計算を伴う問題で、やはりこの大問の特徴をなすものである。戸惑いを感じる人は、センター過去問やセンター試験本番レベル模試を通じて対応力を身につけていこう。

第5問 物語文の読解

高いレベルで安定していた！

第5問の受験学年の得点率は68.7%で、今回の大問の中では最高の成績であった。小問別に見ても、正答率にして50%台後半から80%弱の範囲内に収まっていた。今回の設問に関する限り、特筆すべき注意点はない。ただ、一般論として、ここではストーリー性のある素材文を用いているため、主観的な観察や意見が述べられることが多いので、説明文に比べ、筆者の言いたいことが多少掴みづらいケースもある。この種の文章では、想像力を働かせ

て状況を把握する必要もあることを念頭に置いてほしい。特に、最近のセンター試験では、今年のSF的な文章や突飛な設定のストーリー展開も見られるので、このことは十分に注意しておきたい。

第6問 説明的文章の読解

時間配分を工夫し、全問解答を目指そう！

第6問の受験学年の得点率は56.3%と平均的であった。小問別の正答率では、最後のBが30%台に終わったが、他は40%台半ばから70%台に及んでいた。第6問では、各段落で述べられている論点の中心が何かを意識しながら文章を読む必要がある。それほど難解な文章ではなく、段落ごとの内容は割合にはっきりしているため、十分な時間があれば正解を得るのは難しくない。最後のほうは若干無回答率が上がったが、全問を解くだけのスピードを身につけるために、今後も引き続き語彙力を強化するとともに、第6問に至るまでの解答効率を高めるように努力しよう。そうすれば、この大問の得点率も自然と上がっていくものと期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

全国統一高校生テストは、センター試験の形式や難度を踏襲して作られている。受験生の諸君にとってはこれまでに養ってきた英語の実力を測るのに絶好の機会となったことだろう。センター試験に向けて、各自が最高の準備をするために、これからの2ヶ月あまりをできるだけ有効に使ってほしい。センター試験に限らず、英語の試験に対処する能力は、どれだけ文法や単熟語の知識を身につけ、多読・多解の経験を積むかにかかっている。今後に残された時間を考え、まず文法や基本語彙の面での弱点補強は欠かせない。不安のある部分を集中的に復習すべきである。あとはできるだけ多くの文を読み、多くの問題を解くことである。過去のセンター試験の問題はもちろん、レベル的にも内容的にも近い他の問題にあたるなどして、最後まで多読の方針を貫くべきである。また、発音・アクセントの分野は、短期間でも集中的に取り組めば、かなりの成果を得ることができる。熟語についても同様である。各自が自分に足りないと思われる分野を優先して補強に努めてほしい。